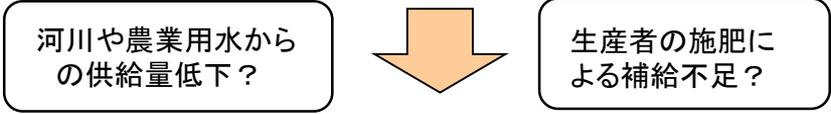


【総理研研究】山梨県の自然環境を活かした水稲高品質生産技術の開発(R3～R5)

総合農業技術センター・衛生環境研究所

背景・目的

- ◎水稲は本県の基幹作物の一つ(県耕地面積の20%)であり、収量や品質が優れ、市場の評価も高い。
- ◎しかし、**昨今、温暖化により品質が低下している。**
- ◎近年は、**水稲の高品質化に關与するケイ酸供給量の減少が指摘されている。**

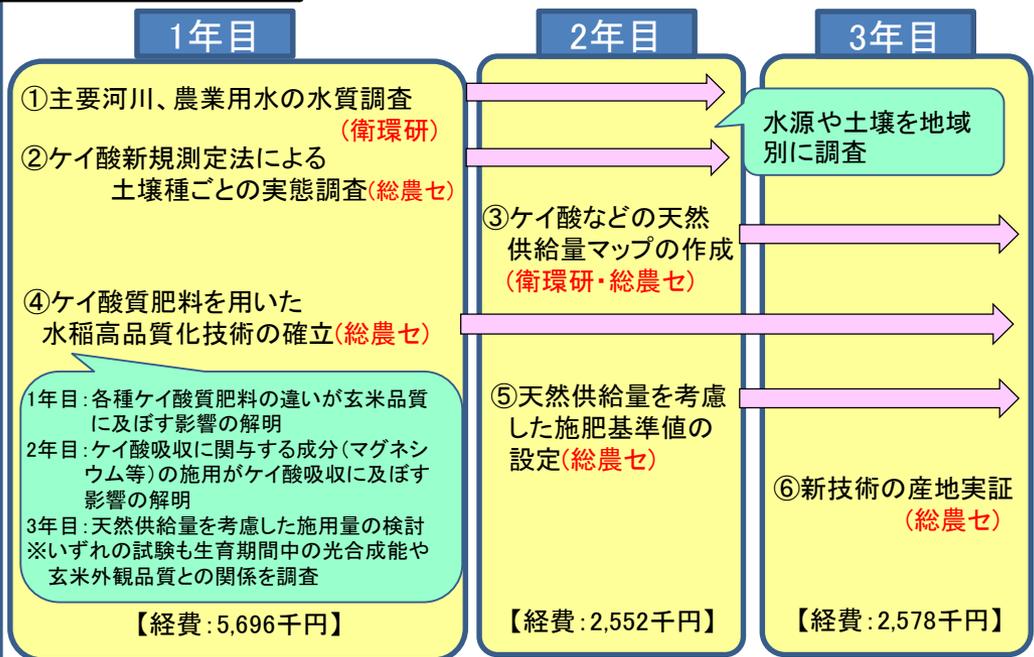


出穂期以降の高温で胴割粒が多発

- ・**県内水稲産地の主要河川・農業用水や土壌によるケイ酸の天然供給量を地域別に把握**
- ・**天然供給量を考慮したケイ酸の施肥基準値を設定し、水稲の高品質生産技術を確立**

研究内容

事業費：10,826千円



期待される効果

- 天然供給量を考慮したケイ酸の施肥基準値が設定されることで、**自然環境を活かした農業生産の実現**につながる。
- 本県の水稲生産にとって最適なケイ酸施用技術による土づくりを行うことにより、**高品質化を図ることができるとともに温暖化に対応した稲作経営の一助**となる。
- 天然供給によるケイ酸を有効活用することで肥料にかかる費用対効果が高まる。



受益農家規模：5,256経営体



やまなしブランドを守りたい！